



2013年
夏の取り組み

看護部 佐藤 知曉

14卒看護師の内定44名

14卒の看護師の内定通知を出しました。奨学生を含め現時点で44名(内助産師3名)です。これから吉祥院・京都協立・中央病院と配属先が決まり、実習と2月の国家試験に合格してはれて来年4月の入職となります。

国家試験対策講座も8月と12月に予定しており、あいまいな知識を確実なものにしていくことが重要となつてきます。がんばれ看護学生!!

ナーシングセミナーにこの夏31名参加

京都保健会の100名を超える奨学生は、近畿高等看護専門学校だけではなく26校に及んでいます。3病院の看護体験を一度もせず、見学だけで入職する学生もいます。そこで、奨学生であっても医療・看護活動を知ってもらおうとナーシングセミナーを設けています。この夏は31名の学生が中央・吉祥院病院、訪問看護ステーションに来てくれました。人気は見えてわかりやすい? 手術室でしたが、「もっと解剖生理の勉強しなくちゃ」とか「先生や看護師さんが丁寧に説明してくれた」「在宅の利用者さんの様子や看護師の役割が知れ勉強になった」など、学生の感性に驚き、頼もしく感じた熱い夏でした。

ENS 近畿の看護学生交流会120名参加

毎年恒例のENS (Egg Nurse Step → (to) B)

近畿地協看護学生ゼミナールが、8月9、10日に、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催されました。京都から看護学生は9名と少なかったのですが、全体では職員合わせ120名の参加でした。

学習企画は、郡山医療生協の佐藤順子看護部長の「この街に住み続けるために」私達の取り組み」の講演でした。震災そして今なお苦しめられている原発事故について、直後の病院の対応、現在の取り組み(線量測定、除染活動、甲状腺検査、被曝軽減:特に子どもたちに安全な遊び場を)を話され、学び続けること、3・11を忘れず今何が起きているかを伝える続けることが大事と訴えられました。

交流企画は、人間知恵の輪やクイズ、ゲーム、イス取りゲーム、フードファイト等で盛り上がり、最後は参加者全員での人間イス! を完成させました。



テーマソングの「hey和(ゆず)をBG

Mにしながら、あつという間の2日間、看護師になる!」という同じ志を持つ人たちとの出会い、現役看護師との出会い、普段学校では教わらない学びもあり、充実した濃いENSになりました。

友の会 活動家紹介

丹後健康友の会 副会長
大同操子さん



大同操子さんは、丹後健康友の会副会長、そして友の会専従として大活躍中です。いつもニコニコ、やさしく丁寧な対応で、友の会事務所に来ると「ほっと」して優しい気持ちになることが出来ます。事務所を訪れる人が絶えません。その場の雰囲気や和らげるムードメーカーでもあります。言うときには言う、やるときにはやる、厳しさもある頼れる存在です。

丹後健康友の会は誕生して16年になります。友の会結成、そして「医師も患者も対等のみんなの診療所をつくらう」と診療所建設の先頭に立ち、今まで粘り強く活動されてきました。今は、保健ボランティア委員として、保健講座の企画や通院ボランティアさんの調整などの活動をされています。

あなたも「丹後健康友の会の顔」大同さんに会いにおいでください。友の会事務所でお待ちしております。

(丹後健康友の会 森岡広子)